

## 「バタタイス養護学校機材購入計画」 供与式

2006年3月24日、サンパウロ州バタタイス障害者を支える親と友の会(APAE)が運営する養護学校において、草の根・人間の安全保障無償資金協力に対する供与式が行われ、丸橋次郎首席領事、ジョゼ・ドニゼッテ・ヴィラルール・バタタイス APAE 会長、ジョゼ・ルイス・ロマニョーリ同市市長、マリア・ダス・グラッサス・アランテス・シルヴァ同市市議会議長等の被供与団体及びバタタイス市関係者等約 50 名の他、同校生徒が多数出席しました。

APAE 製作による今回の供与機材を紹介するビデオ上映及び生徒による踊りの披露の後、ヴィラルール会長より、「日本が全世界で行ってきている素晴らしい仕事に感謝したい。ブラジルではスクールバス、救急車、学校や病院の修復等、日本の国民から多くの協力を頂いているが、今回バタタイス APAE もその恩恵を受けることが出来て幸いです。今回供与された機材で各人の様態にあった処置が可能となり生徒達の社会参加が促進されることになり、日本政府・国民に感謝したい。」と述べました。

次いで、丸橋首席より、ブラジル及び当館管内の草の根無償の実績を紹介しつつ、母国と在勤国との友好関係の促進を大きな使命の一つとする外交官にとり在勤国の国民に支援を行い喜ばれる時が最も幸せであり、今次協力を通じて、バタタイス市民が地球の反対側にある日本を少しでも身近に感じてもらえれば幸いであると挨拶しました。



記念プレート前  
(右から)丸橋首席領事、APAE 生、  
ロマニョーリバタタイス市長



(左から) ヴィラルール会長、  
丸橋首席、ロマニョーリ市長



個人のニーズに合わせた車椅子  
で胴体や足を特別サポート

最後に、ロマニョーリ市長より、「第2次大戦の廃墟から素晴らしい国家を築き上げた日本人は、自国民のみでなく、他国民へも支援の手を差し伸べるという、まさしく人類全体への模範である。バタタイス市民を代表して日本政府、国民に深甚なる感謝を表明したい」と述べました。

式典に続き、丸橋首席がロマニョーリ市長、ヴィラルール会長と共に学校玄関に設置された記念プレートの除幕を行った後、カルメン校長の案内で約1時間にわたり学校の施設を視察しました。ODA シールが貼られた真新しい電動車椅子、軟性装具、椅子等の供与機材を使用乃至着用した生徒達は、指導教員と共に丸橋首席に対して握手や抱擁等で各々感謝の気持ちを表しました。

○上記案件のプロフィール

案件名：「バタタイス養護学校機材購入計画」

被供与団体：バタタイス APAE(障害者を支える親と友の協会)

契約署名日：2005年10月5日

供与限度額：73,892ドル



案件概要：バタタイス APAE は、1970年に設立された障害者支援施設であり、バタタイス市及び近郊より約 1,300名の障害者が通園しています。通園者は、教育や職業訓練、リハビリやセラピー、医療支援、身体的障害発生の予防、生活支援を受けています。施設内の設備は老朽化したものが多く、古いものを大事に使い回ししているものの、通園者に十分対応できない状況です。又、必要な機器がないため、新たな治療法にも対応できていません。本件協力により、老朽化した設備の更新や新たな機器の購入を行うことで障害者のリハビリ・生活環境が大きく改善されることが期待されます。



供与品のリハビリ機材、軟性装具等